

七飯町立七重小学校 学校改善の取組について①【概要】

1 学校教育目標

- ◎ 深く考える子ども
ものごとを深く考え、正しく判断し、なにごとにも工夫して最後までやりとげる子ども
- ◎ 明るく思いやりのある子ども
明朗で礼儀正しく、美しいものに感動し、他人の立場で考える思いやりのある子ども
- ◎ 丈夫でたくましい子ども
健康で丈夫な身体とねばり強さを持ち、働くことに喜びを持つたくましい子ども

2 教育理念

今、ここ（七重小）での教育のその先に希望と期待を持って

- ★「七重で学び、七飯で育つ」 その子どもたちは、やがて、七飯を創り、七飯を担う人になる。
・・・「地域とともにある学校」&「学校とともにある地域」

3 テーマ

これまでの積み上げの成果を引き継ぎ、学校力指定を追い風にした
『安全・安心・安定』の学校づくりと『持続可能な七小文化』の確立

4 学校改善の基本的なスタンス（考え方）

1. わたしたちの使命】
子どもを「めざす状態」にすること = 「具現化」
2. 仕事の成果
子どもの変容（成長）=「ビフォー・アフター」 ★ 「子どもの姿で学校が語れる」
3. 優先順1位
「授業」=「精度（質）を上げること」「45分で完結すること」
4. 時間を生み出すために
「効率化」のための「ムリ・ムダのそぎ落とし」
5. よくするために
「何かを増やすのではなく、何かを減らす」
6. わたしたちの姿①「まず行動、まず実践」
「やりながら考える。やってみて考える。」
7. わたしたちの姿②「放置しない、先送りしない」
「変える必要のあるものは年度途中でも即座に変える。」
8. わたしたちの姿③「3つの“あい”」
「同僚性」と「協働性」=日々、校内でできる「学び合い」「磨き合い」「高め合い」
9. わたしたちの姿④「チーム」
「石垣のような組織」=「個」の力を最大限に生かすチーム
10. わたしたちの姿⑤「“そうい”のある学校」
「相違」ある実践 + 「創意」が光る実践 = 「総意」となる学校

5 学校改善の6つの「キーワード」

1. 日々意識「日々実践・日々具現・日々深化」

- ★ 本校の全教育活動は、子どもの「めざす姿」の具現化のために。1年後の到達点→毎日具現化へ
- ★ 目的意識を明確にもつ。日々効果的な指導支援と工夫改善。

2. 全教育活動のコンセプト「アウトプット」 ※1

- ◎ 子どもの「力」が発揮できる学校づくり【全教育活動で発揮させる】
- ★ アウトプットを前提、日常化した学習活動。インプット重視からアウトプット重視へ。
- ★ 「まず行動・まず実践。やりながら考える。やってみて考える。」
(即座に変える、放置・先送りしない)

3. 持続可能な七小文化「いきわたる」 ※2

- ◎ 確かな「力」の育成【授業の精度をあげる】意図的、計画的、組織的、継続的な教育活動の展開。
- ★ 研究成果「七小スタイルハンドブック」(算数・道徳)をベースとした各教科の授業改善の取組。
- ★ 安心・安定をいつでも全員に確実に「学習スキル」(七小のルール)の定着化。
- ★ NPU(教育課程評価改善会議)、学校評価による教育課程の進行管理と即時改善。

4. 基盤となる「学年経営の充実」

- ◎ 「力」を高め合える仲間と学級・学年づくり【学習環境の安定化】
- ★ 共通部分を確実に「そろえる」
- ★ 「教室は安心できる場所、自分を表現できる場所～支持的風土のある教室」
- ★ 「一体感と達成感を実感できる教室」～一人一人の心に向き合う学級づくり(1対1の対話)

5. UD視点「わかりやすい授業」の安定展開

- ◎ 特別支援教育の視点を土台とした学校づくり・・・七小UDスタイルの確立
- ★ 「わかろうとする、できるようになろう」とする授業改善
- ★ 生徒指導の3機能を生かした授業改善

6. 同僚性と協働性、専門性と経験「One Team」日々学び合い、磨き合い、高め合って力量向上

- ★ 共通目標に向かう、「相違」と「創意」を尊重し合うチーム＝「総意となる学校」
- ★ 共通目標に向かう、「個」の力の最大限に生かすチーム
- ★ 時間を生み出すチーム。「シンプル・コンパクト・スピード」(増やすよりも減らす)時間対効果。

※1「アウトプット」出力(⇨入力「インプット」)「話す」「書く」等。自分の内側にある考えや情報を外側に表現すること。
※2「いきわたる」物事が隅々まで及ぶこと。染みわたる。浸透する。いつも例外なくそうである。

6 重点教育目標

「わかる」「できる」「つかえる」子どもの育成

「わかる・できる・つかえる」を実践キーワードに、6つの基本方針を全職員が実現し、重点事項に沿った実践を推進することにより、学校教育目標の達成を目指します。

【資料】

(1) 令和元年度 本校の児童の実態

<よさ> 確実に成長している!

- ・【問題解決能力】学習内容の定着
- ・【学習意欲】褒める⇨褒められる、できることが増えた
- ・【ノート記述】家庭学習への汎用
- ・【学習規律】授業準備等、約束は守ろうとする
- ・【元気で明るい集団】児童の個性、特性の理解
- ・【責任感】前向きに仕事ができる⇨勤労意欲、責任感
- ・【協働性・思いやり】道徳、NPUで学級生活改善の芽生え



「七小スタイル」(定着→継承),「道徳」,「NPU」等
「授業」を通して育まれてきた資質・能力

<課題> 活用力? 読解力? 〇〇力? 分かりやすい子供像を

- ・【話す・聞く・対応する】
コミュニケーション能力の低さ、相手意識の欠如
- ・【読解・活用】問題や文章を読み、理解し、解決する
- ・【規範意識】約束が守られない→規範意識の低さ
- ・【人間関係の構築】ソーシャルスキル不足、人間関係の構築
- ・【主体性】主体的に動けない→先生頼り
- ・【自律・継続性】粘り強くやり遂げられない
- ・【納得解】自分事として捉えられず、正しい考えが行動につながらない



「授業」を通して育まれていない資質・能力

(2) 令和2年度 本校の基本的な方向性 ポイント(NPJ 対話より) ※「力」=資質・能力



① 「力」を高め合える仲間と学級・学年づくり
【学習環境の安定化】
 ↓ 規範意識, 主体性, 協働性, 継続性等,
 ↓ 支持的な風土に満ちた温かな学級づくり
【相手意識・目的意識を高める】
 傾聴, 関わり合い, 協働性, 社会性, コミュニケーション (話す・聞く・対応する: リーサルスキルトレーニング等)

② 確かな「力」の育成
【授業の精度をあげる】
 ↓ 児童理解の深化, 資質・能力の定着と
 ↓ 向上に向けた教材研究 (学びをつなげる)
【授業で土台をつくる】
 「教える」ことは発達段階に応じてしっかりと定着させる。その上で、「考えさせる」。



③ 子供の「力」が発揮できる学校づくり
【全教育活動で発揮させる】
 授業, 学校行事等 (集会や委員会等も含む) で「力」を向上, 実感させる
【全教育活動で身に付けさせる】
 全教育活動で「力」を身に付けさせる



(3) 令和2年度 本校のめざす子供像・重点教育目標【イメージ図】

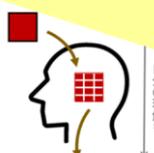


「わかる」「できる」「使える」子供の育成

知



【インプット】
 自分の言葉で定義ができる
 (結果・抽象化)



技

【アウトプット】
 具体的に動作として表す
 (状態・具体化)

学びに向かう力

思・判・表

本校の児童に必要な「力・姿」を「授業」や「学校行事」等, 全教育活動を通して育み, 発揮させる

★「手段」を「目的」化しない! ★ 上位目標(目的)を全員で共通評価!(NPJ等短期学校評価サケ)

【浅】 学習の理解度・学習態度
 【深】

7 目指す学校像

【目指す学校像】 最優先・重要項目

『安全・安心・安定』を最優先した学校運営と『持続可能な七小文化』の確立

『児童一人一人が輝く学校』

～ 誰一人として取り残さない。それが七小です。これまでも、これからも。

★「七重で学び, 七飯で育つ」 その子どもたちはやがて, 七飯を創り, 七飯を担う人になる。

・子どもにとって《安全な行きたい学校》

「学校に行くことが楽しい」「やる気スイッチ ON」「自己有用感」「自己指導能力」

・保護者にとって《安心な通わせたい学校》

「安全・安心」の危機管理整備・一人一人の子どもを大事に・確かな学力の保障・豊かな人間関係

・教職員にとって《働きがいのある学校》

学校は教職員で決まる。個々の力をチームとして結集。

全員で認め合い, 褒め合い, 喜び合える学校。

・地域住民にとって《足を運びたい・応援したい・参加したい学校》

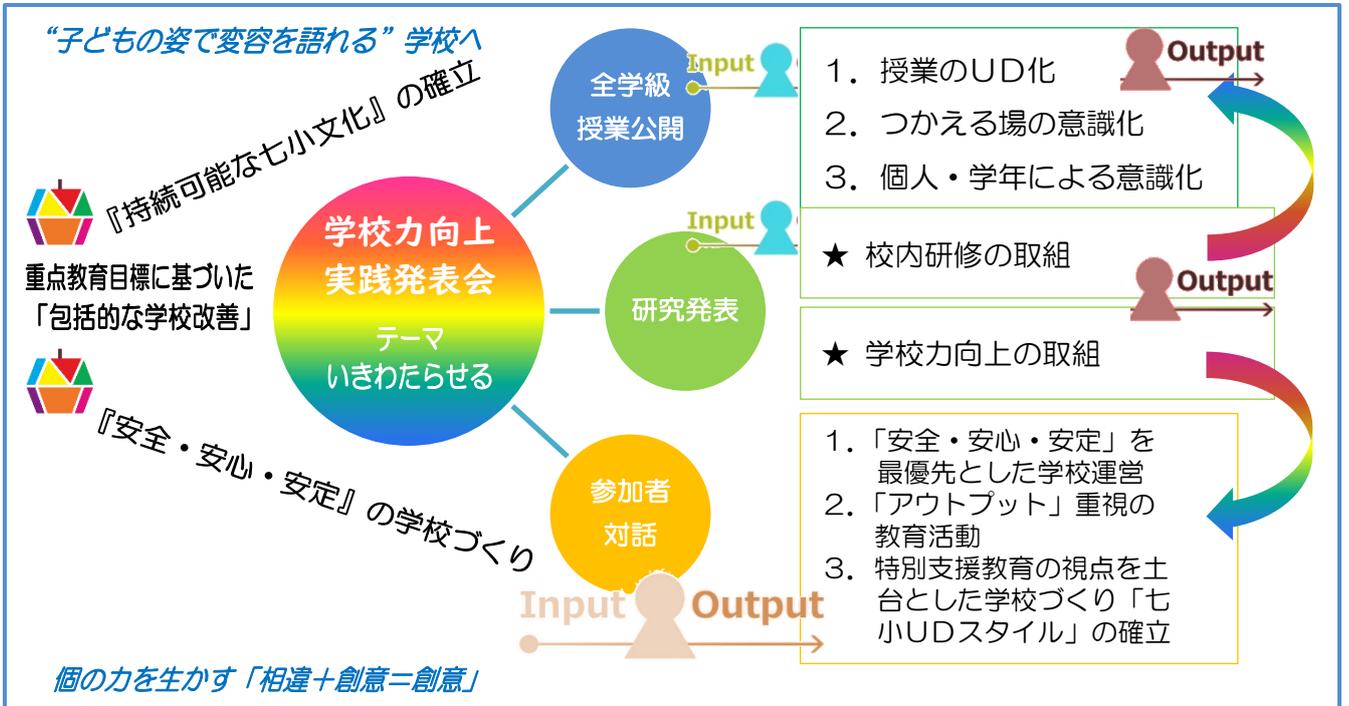
愛着のある「地域の学校」として自慢したくなる学校でありたい

8 令和2年度 学校力向上「学校改善」の基本的なスタンス（考え方）

全職員に「いきわたらせる」

9 令和2年度 学校力向上「実践発表会」

1. 内容



2. コンセプト

